

◎第11回理事会(39.4.24)

出席者：山本会長，岡本副会長，羽田専務理事，内田，江口，嶋，田中，前沢の各理事。議事録署名理事：三野理事，羽田専務理事。

A. 協議事項：1) 定例評議員会開催について；日時・議題などについて打ち合わせ可決。2) 名誉会員推挙候補者について；外国人を名誉会員に推挙する件については海外連絡委員会に内規作成を依頼する。ほかの人々については推挙することとする。3) 高校土木教育研究会を委員会に変更する件を承認。4) 1966年海岸工学国際会議の開催についての委員会よりの申入れについては条件をつけて承認。5) その他；①理事，監事推薦世話人の経過について永田世話人会会長より説明。②理事会へ監事の出席方について。6) 委員の委嘱について；

岩盤力学委員会

常任委員 吉川恵成(国鉄信濃川工務局)

今西誠也(日本道路公団計画部)

◎各種委員会

(1) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準研究小委員会幹事会(39.3.3) 出席者：河野委員，ほか7名。議事：プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準(案)について審議した。

(2) 出版企画委員会(39.3.3) 出席者：荒井，森正副委員長，嶋幹事長，ほか5名。議事：1) 38年度出版物決算見込み報告および39年度出版関係予算の審議。2) 第1回出版関係委員長懇談会報告。3) 39年度出版物および50周年記念出版物の進行予定報告。4) 新規出版物の企画について。

(3) トンネル工学委員会調査小委員会(39.3.9) 出席者：関係者7名。議事：トンネル標準示方書解説案調査編の検討を行なった。

(4) 土木振動学便覧打合せ(39.3.9) 出席者：関係者8名。議事：土木振動学便覧(仮称)刊行のための打合せを行なった。

(5) 本州四国連絡橋技術調査委員会幹事会(39.3.9) 出席者：関係者9名。議事：省略。

(6) 岩盤力学委員会第1分科会(第2回)(39.3.10) 出席者：委員3名。議事：1) 第1分科会のVisionについて。

2) 今後の活動方針について。

(7) 本州四国上部構造に関する専門部会耐風設計小委員会第18回幹事会(39.3.10) 出席者：平井委員長，ほか12名。議事：省略。

(8) トンネル設計小委員会(39.3.10) 出席者：関係者5名。議事：トンネル標準示方書設計編の解説執筆につき打合せた。

(9) 50周年記念出版写真集小委員会出席者：関係者4名。議事：写真のリスト作成。

(10) 第5回原子力関係コンクリート小委員会(39.3.11) 出席者：委員15名。議事：1) 今年度研究実績報告について。2) 来年度の研究申請について。3) 経費の精算について。4) その他。

(11) 50周年記念出版写真集小委員会(39.3.11) 出席者：関係者5名。議事：写真のリスト作成。

(12) 本州四国上部構造に関する専門部会第17回幹事会(39.3.11) 出席者：青木部会長，ほか13名。議事：省略。

(13) 50周年記念出版写真集委員会第4回分科会(39.3.12) 出席者：片山委員長，ほか26名。議事：1) 10,11日で作成したリストを中心として，登載最終リストを各部会ごとに作成。2) 不足または不良写真の再手配の基本案を作成。3) その他。

(14) 50周年記念出版写真集小委員会(39.3.13) 出席者：竹原主査，ほか2名。議事：道路部門，トンネル部門(道路関係のみ)のリスト作成。

(15) 土木賞委員会(39.3.13) 出席者：山本委員長，ほか14名。議事：1) 経過報告。2) 予選に付すべき候補の選定。3) 予選，決選の方法。4) 土木賞委員の交代。5) 第3回委員会について。6) その他。

(16) 50周年記念出版写真部門主査幹事会(39.3.14) 出席者：片山委員長，ほか2名。議事：1) 写真集登載各部門件数，件名の最終調整。

(17) 岩盤力学委員会主査幹事会(39.3.16) 出席者：岡本委員長，ほか7名。議事：1) 各分科会より提出のVision，当面の活動のとりまとめ。2) 常任委員会，各分科会の回数について。3) 本委員会開催について。4) 委員の交代について。5) シンポジウムについて。

(18) 吉田賞委員会(39.3.16) 出席者：幹事2名。議事：1) 吉田賞予備審査結果の整理。2) その他。

(19) 耐震構造設計研究委員会第11回幹事会(39.3.16) 出席者：幹事6名。議

事：昭和38年度の報告書の作成作業を行なった。

(20) 本州四国耐震設計小委員会第11回幹事会(39.3.17) 出席者：関係者9名。議事：省略。

(21) 第74回耐震工学委員会(39.3.17) 出席者：那須委員長，岡本副委員長，ほか11名。議事：1) 原子炉の耐震問題について(講演)。2) 前回議事録について。3) WCEEについて。4) IISEEについて。5) 政府間会議について。6) 英文耐震規定について。7) 土木振動学便覧について。8) その他。

(22) 土木図書館運営委員会幹事会(39.3.17) 出席者：米元委員長，千秋幹事長，ほか11名。議事：1) 国際会議論文集購入リストの作成。2) 外国雑誌バックナンバー購入リストの作成。3) 国内各機関の資料リストの作成。

(23) 土木用語辞典編集委員会(39.3.18) 出席者：関係者14名。議事：1) 編集経過報告。2) 重複用語の件。3) 選出外文部省制定用語の件。4) 原稿締切期日の件。

(24) 岩盤力学委員会第2分科会(第5回)(39.3.18) 出席者：増田主査，ほか8名。議事：1) 一ツ瀬ダムの基礎岩盤の変形について。2) 主査幹事会の経過報告について。

(25) 第3回PC鉄道橋設計施工基準研究小委員会(39.3.19) 出席者：国分委員長，ほか15名。議事：PC鉄道橋設計施工基準(案)について。

(26) 吉田賞委員会(39.3.19) 出席者：国分副委員長，ほか15名。議事：1) 審査に付すべき候補論文の選出。2) 審査方法の決定。3) 吉田研究奨励金候補の予備審査。4) 第3回委員会について。5) その他。

(27) 第3回耐震構造設計研究委員会(39.3.23) 出席者：岡本委員長，ほか17名。議事：耐震構造設計に関する報告書の審議を行なった。

(28) 岩盤力学委員会第4分科会(第4回)(39.3.24) 出席者：大久保主査，ほか3名。議事：1) 第4分科会の当面のテーマについて。2) Lituriniszyn論文の紹介。3) 文献リストの整理の方法。4) その他。

(29) トンネル工学委員会設計小委員会(39.3.24) 出席者：関係者9名。議事：トンネル標準示方書設計編解説執筆の打合せを行なった。

(30) 本州四国第14回耐風設計小委員会(39.3.20) 出席者：平井委員長，ほか29名。議事：省略。

(31) 会誌編集委員会 (39.3.27) 出席者：八十島委員長，ほか14名。議事：1) 投稿原稿の報告。2) 関西支部特集中間報告。3) 49巻第6号編集掲載案報告。4) 新規依頼原稿の件。5) その後の編集方針の件。6) 委員交代の件。7) その他。

(32) 第10回岩盤力学常任委員会 (39.3.27) 出席者：岡本委員長，ほか14名。議事：1) 前回議事録の確認。2) 岩の力学シンポジウムについて。3) 分科会の活動方針について。4) 水圧鉄管の埋設における圧力トンネルの設計について。5) その他。

(33) 本州四国第7回上部構造に関する専門部会 (39.3.27) 出席者：青木部会長，ほか34名。議事：省略。

(34) 海外連絡委員会幹事会 (39.3.31) 出席者：柳沢委員長，高橋幹事長，ほか3名。議事：1) 英文年報の頒布方法について。2) スウェーデン土木学会訪日について。3) 土木技術者の海外進出について。4) その他。

(35) トンネル工学委員会設計小委員会 (39.3.31) 出席者：担当委員7名。議事：トンネル標準方書解説第1原案設計編の審議。

(36) 50周年記念出版委員会 (39.3.31) 出席者：佐藤，山田正副委員長，ほか14名。議事：1) 50周年記念出版予算について。2) 図書館整備費について。3) 50周年記念出版物進行予定状況について。4) 各出版物の内容報告および進行上の問題点について。5) PRの方法，それに関連しての予備費について。

◎その他

(1) 会誌登載「岩盤力学」座談会 (39.2.11) 出席者：関係者9名。議事：土木学会誌登載講座原稿(第49巻第6号登載予定)を作成するため座談会を開催し，速記録をとった。

(2) 第4回土木学会・日本建築学会コンクリート用語統一打合せ (39.2.25) 場所：土木学会会議室
出席者：関係者11名。
議題：1) 前回議事録の承認。2) 両学会誌に統一方発表について。3) 今後の運営方針。4) その他。

(3) Sorevtz氏を囲む会 (39.2.28) 出席者：関係者12名。議事：Sovetz博士がねじり異形棒鋼のアイデア開発のため日本に立寄られた機会にフリートークングを行なった。

(4) 岩の力学国内シンポジウム打合せ (39.2.28) 出席者：関係者10名。議事：岩の力学国内シンポジウム開催のための打合せを行なった。

(5) 関東支部設立準備会 (39.3.6) 出席者：関係者7名。議事：1) 関東支部結成に伴う定款の改正について。2) 交付金，人件費の件について。3) 発起人会の設置とその他役員の選定について。4) 次期準備委員会の件。5) 本会は大学関係を対称として開られたもので主として支部役員などにつき意見の交換が行なわれた。

(6) 第5回コンクリート連合委員会 (39.3.10) 出席者：武藤委員長，ほか16名。議事：1) 前回議事録の確認。2) CEBとのJoint Committeeについて。3) スラブ分科会について。4) 鉄筋コンクリート用棒鋼規格案について。5) コンクリート用語の統一について。6) セメント化学シンポジウムについて。7) その他。

(7) 土木系学生の会 (39.3.18) 出席者：関係者5名。議事：学会誌学生欄編集について。

(8) 第28回関東地区学生諸君のための映画会 (39.3.21) 参加者：20名
上映映画：1. 佐久間ダム 1,2,3部
2. 東海道新幹線

(9) 岩の力学連絡委員会 (39.3.25) 出席者：土木学会，土質工学会，日本鉱業会より関係者7名。議事：1) 各学会担当の講演案について。2) シンポジウム予算案について。3) その他。

(10) 関東支部設立準備会 (39.3.27) 出席者：関係者12名。議事：支部規定，事業計画，予算，役員，事務所の所在地，発起人，総会の日時および場所などを審議決定した。

(11) コンクリート連合委員会訳語選定分科会(第1回) (39.3.30) 出席者：関係者13名。議事：1) 分科会長の選定。2) 訳語の方針について。3) 委員の追加について。4) その他。

支 部 だ よ り

◎北海道支部

(1) 支部奨励賞選考委員会 (39.3.13, 札幌商工会議所) 出席者：関係者3名。

(2) 支部規定改正委員会 (39.3.24, ふじや) 出席者：板倉委員長，ほか5名。

(3) 評議員会出席打合せ (39.3.24, ふじや) 出席者：評議員4名。

(4) 第9回幹事会 (39.4.3, 札幌市民会館) 出席者：林幹事長，ほか4名。議事：1) 支部規定改正案について。2) 総会行事について。3) 評議員理事の候補について。4) 高議員候補について。

(5) 第4回高議員会 (39.4.6, 開発

局) 出席者：土戸支部長，ほか21名。議事：1) 理事候補者の選出。2) 評議員の選挙について。3) 支部規定の改正について。4) 支部奨励賞選考について。5) 総会行事について。6) 50周年記念行事と募金について。7) 支部行事報告。

◎関東支部

(1) 第1回通常総会 (設立総会)

会場：発明会館

日時：昭和39年4月30日16時

参会者：100余名

次第：

1. 発起人代表の挨拶(後藤正司氏)
2. 支部設立の経過報告(")
3. 支部長の選任
當山道三氏決定
4. 支部規定案の審議(有江義晴氏説明)
5. 事業計画および予算案の審議
(富田善明氏説明)

6. 高議員の選出

7. 幹事長，幹事の選任

8. 祝 辞

会 長 山本三郎氏

中部支部長 松見三郎氏

祝 電

北海道，東北，関西，中国四国，西部各支部

(2) 設立懇親会

日時・会場：設立総会終了に引き続き
同所で開催

参加者：100余名

(3) 土木学会関東支部役員

支部長

當山道三 日本大学工学部

幹事長

堺 毅 日本大学工学部

高議員

川崎伸志夫 建設省関東地方建設局道路部長

海保久雄 運輸省第2港湾建設局先任港湾工事検査官

高橋克男 日本国有鉄道東京工務局次長

水越達雄 東京電力KK建設部長

高橋清吉 日本道路公団東京支社工務部長

有江義晴 首都高速道路公団工務部長

西嶋国造 帝都高速度交通営団工務部長

畑野正 電力中央研究所電力技術研究所主任研究員

八十島義之助 東京大学教授

後藤正司 早稲田大学教授

小野竹之助 日本大学教授

野中八郎 東京都下水道局建設部長

秋永規輔 茨城県土木部長

前島健雄 栃木県土木部長

広田久重 群馬県土木部長

木村英夫 埼玉県土木部長

松垣光 千葉県土木部長

岡崎忠一 神奈川県土木部長

田所文男 新潟県土木部長

小田高利八 山梨県土木部長
 安藤道夫 三井建設KK専務取締役
 生出久也 鹿島建設KK土木企画部次長
 亀卦川振興 日本舗道KK常務取締役
 小松原豊 日本国土開発KK取締役

幹事
 佐藤秀一 建設省関東地方建設局企画室長補佐
 藤井宏知 運輸省第2港湾建設局企画課長
 町田富士夫 日本国有鉄道東京工事局土木課長
 戸谷是公 日本道路公団東京支社工事部補修課長
 森 麟 早稲田大学助教授
 吉田 徹 建設省土木研究所千葉支所建設専門官
 二階堂 宏 東京都下水道局設計第1課長
 植月 躋 電源開発KK土木部設計課副参事
 佐藤正昭 松尾橋梁KK東京支店

◎関西支部

(1) 例題による水理公式集解説講習会 (39.3.26~27, 大阪府職員会館)
 講師と担当事項
 ① 河川編 (1), (2) (発電水力編 (1), (2) を含

む) 名古屋大学工学部教授 工博 足立昭平
 ② 河川編 (3)
 京都大学防災研究所教授 工博 石原安雄
 ③ 河川編 (4), (5) (発電水力編 (3) を含む)
 京都大学工学部助教授 工博 岩佐義朗
 ④ 河川編 (6)
 京都大学防災研究所助教授 工博 芦田和男
 ⑤ 河川編 (7) (上下水道編 (1) を含む)
 京都大学工学部教授 工博 赤井浩一
 ⑥ 発電水力編 (4), (5)
 東京大学工学部教授 工博 嶋 祐之
 ⑦ 発電水力編 (6)
 建設省土木研究所ダム水理研究室 中川博次
 ⑧ 発電水力編 (7), (8), (9)
 中央大学理工学部教授 工博 林 泰造
 ⑨ 発電水力編 (10), (11)
 電力中央研究所技術研究所 工博 千秋信一
 ⑩ 上下水道編 (2), (3)
 大阪市水道局工務部工務課長 長田新平
 ⑪ 上下水道編 (4), (5), (6)
 京都大学工学部教授 工博 合田 健
 ⑫ 上下水道編 (8)
 大阪工業大学教授 工博 川島 普
 ⑬ 上下水道編 (7), (9)
 建設省土木研究所下水道研究室長 杉木昭典
 ⑭ 港湾および海岸編 (1), (2)

京都大学防災研究所教授 工博 岩垣雄一
 ⑮ 港湾および海岸編 (3), ((4) の一部)
 運輸省港湾設計基準部長 工博 井島武士
 ⑯ 港湾および海岸編 (4)
 建設省土木研究所河川部長 工博 細井正延
 ⑰ 港湾および海岸編 (5)
 名古屋大学工学部助教授 工博 榎木 亨
 ⑱ 港湾および海岸編 (6), (7), (8)
 大阪大学工学部助教授 工博 室田 明
 参加者: 489名, 参加費 700円
 (2) 講師懇談会 (39.3.27, 中央電気倶楽部) 参加者: 22名。
 (3) 土と基礎の調査と計測に関する講習会 (39.3.30~31, 大阪大学工学部)
 主催: 土質学会関西支部 協賛: 日本建築学会近畿支部・土木学会関西支部
 題目: 6題および実演 参加者: 334名
 (4) 支部選出理事詮衡評議員打合せ (39.4.7, 土木学会関西支部事務局) 出席者: 関係者 10名。
 (5) 第12回幹事会 (39.4.15, 土木学会関西支部事務局) 出席者: 石田支部長, 松尾幹事長, ほか7名。

第7回	水理講演会講演集 (1962年版)	B5判 82頁 定価 400円 会員特価 350円(〒40円)
第8回	水理講演会講演集 (1963年版)	B5判 78頁 " 450円 会員特価 400円(〒50円)
第4回	海岸工学講演会講演集 (1957年版) (平板)	B5判 244頁 " 300円 (〒90円)
第5回	海岸工学講演会講演集 (1958年版)	B5判 204頁 " 400円 (〒70円)
第6回	海岸工学講演会講演集 (1959年版)	B5判 160頁 " 400円 (〒60円)
第9回	海岸工学講演会講演集 (1962年版)	B5判 162頁 " 1000円 会員特価 800円(〒100円)
第10回	海岸工学講演会講演集 (1963年版)	B5判 184頁 " 1200円 会員特価 1000円(〒100円)

編集後記

名神高速道路栗東~関ヶ原の開通, 東海道新幹線の鳥飼~大原間試運転の開始, 羽田モノレール線の一部走行試験等, 最近の新聞を賑わしているこれらの工事を始めとして, オリンピックを一エポックとして行なわれている一連の工事には, 明かるい希望があり, これらが完成するときには, 土木技術者として誇るに足る新しい1ページを加え得るものと思えます。交通関係にとっては今年ほど盛り多いことは少ないのではないのでしょうか。

しかしながら, これらの工事にくらべて, 日常われわれの企画する工事のなかには, 竣功すなわち陳腐化

(というのは少し極端ですが) のような現象, すなわち, たとえば当初計画の最大輸送量が開通後わずか2~3年の間にきてしまうようなことが多すぎるのではないのでしょうか。このことは経済の異常な伸びにその責めがあるのですが, 土木技術者としては, もっと説得力をもって, 都市計画を始め, すべての計画に寄与したいものです。

ここにお送りする「開通一年を迎える名神高速道路」はトピックスとして, 以上の意味からもご一読願いたいものです。

今月は関西支部のご尽力により関西支部特集をお届けします。各支部の協力によって企画されたこれらの

特集は土木の各分野において, その支部内の現状と将来, 問題点とその対策などについて, なかなか得難い権威ある紹介をしており, 会員の皆様方に興味をもってお読みいただけるものと信じております。

また, 構造物として鋼かコンクリートかはわれわれの関心の深い問題ですが, ここに, 藤田氏の「コンクリート構造物とその将来—構造材料としての鋼とコンクリートの役割—」をいただきました。そのほか, 岩村氏の「最近の地下鉄工法と展望」をはじめ話のひろば, 講座など興味を引く問題を掲載しました。

【菊川哲士・記】

昭和38年度土木学会誌編集委員

委員長	八十島 義之助				委員兼幹事	松本成男
委員	石井文夫 齊藤俊彦 南部繁春 梅田卓郎	城野忠雄 豊島修 新谷洋二 遠藤篤康	千秋信一 原田信昭 森本茂男 大山忠	土屋昭 藤井喬 湯浅昭士 菊川哲士	後藤績 町田富士夫 渡辺隆	佐藤尚徳 奈良部俊雄 森麟
地方委員	(北海道支部) 菅原照雄 河野文弘	(東北支部) 三浦晃 阿部泰夫	(中部支部) 酒井清太郎 増田重臣	(関西支部) 赤尾親助 西村昭	(中四支部) 門田博知 玉井敏一	(西部支部) 小坪清真 長友文昭

会員入退会について (昭和39.4.1~4.30)

入会	217名	(正128 学82 特1.C 2 特1.D 3 特2 2)
復活	6名	(正)
退会	53名	(正43 学10)
死亡	2名	(名誉1 正1)
転格	647名	(学→正)

特別会員入退会

○入会

昭和39.4.13	特1.C	世紀建設KK東北営業所	仙台市元寺小路151
" "	"	KK奥村組仙台営業所	仙台市定禅寺通り櫓丁21
" 4.1	特1.D	昭和電工KK	東京都港区芝宮本町34
" "	"	日本コンクリート工業KK大阪営業所	大阪市阿倍野区天王寺町南2-6
" "	"	川崎車輛KK	神戸市兵庫区和田山通1-6
" 4.13	特2	日本大学三島図書館	静岡県三島市芝町4丁目
" 4.27	"	北海道大学農学部図書掛	札幌市北9条西9丁目

会員現在数

名誉	正会員	学生会員	賛助	特級	特1.A	特1.B	特1.C	特1.D	特2	合計	(増)
48	15330	1352	30	17	16	48	230	343	33	17447	(168)

名誉会員	八田嘉明君	国際技術協力開発KK社長	昭和39.4.26	死去	84才
正会員	近藤武馬君	東星興業KK専務取締役	" 4.2	"	59才

支部所在地

北海道支部	札幌市平岸 北海道開発局土木試験所内 (電 札幌 83-4161)
東北支部	仙台市北三番丁124 建設省東北地方建設局企画室内 (電 仙台 22-4191)
中部支部	名古屋市中区南外堀町6の1 名古屋土木局道路建設課内 (電 名古屋 94-5511)
関西支部	大阪市天王寺区堀越町110 天王寺ステーションビル4階 (電 大阪 716-7881 内33)
中国四国支部	広島市国泰寺町39 広島市建設局土木課内 (電 広島 41-1111)
西部支部	福岡市渡辺通り2丁目 九州電力KK土木部内 (電 福岡 76-3031)

昭和39年6月10日印刷

昭和39年6月15日発行

土木学会誌 第49巻 第6号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社技報堂

東京都港区赤坂溜池5番地

口絵製版印刷者 若林孟夫

印刷所 若林原色写真工芸社

東京都港区芝杉川口町20番地

発行者 羽田 巖

発行所 社団法人土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定価 200円 (送料20円)

振替 東京 16828 番

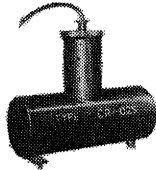
電話 (351) 5130・5138・5139 番

計器を生かす道

カールソン型計器と沈下量の測定

計画→計器設置→実測→解析報告迄当社の一貫した業務を御利用下さい

微分傾斜計の紹介 実用新案 第571121号



本器は名称のごとく設置点の勾配 dy/dx を観測するもので最も感度の高いものは $2''$ の傾斜を分離する。すなわち $100m$ につき $1mm$ の勾配に相当する。したがって現在最も高感度の気泡管水準器にひびく敵する。しかも電気的な増幅をいっさい行わずに遠隔測定ができるのであらゆる傾斜の測定が可能になった。また本器はその構造上振子の固有周期が非常に長いので数サイクルの振動現象に対しては振子が静止系となり動変位計として働く。

これは土木工学でしばしば問題になる地震に対する観測計器として非常にユニークなものである。温度変化に対しては全体が完全に対称で平衡を保持する構造になっているので全く異状を生じない。本器の特色を列挙すると次のとおりである。
①カールソン型計器の一群として使用できるので特別な指示計の必要がない。
②静的には高感度の傾斜計として動作用動的には動変位計として働くので目的によっては兼用できる。
③埋設用であるからあらゆる場所に設置できる。
1. ダム及び岩盤の傾斜測定。2. 地すべり計として極めて優れている。3. 鉱山での崩落予知に適している。4. 橋脚・主塔などの傾斜測定。5. 高層建築物の傾斜測定。6. 鉱害調査等で地盤の沈下を観測出来る。7. 重機械等の保守管理。8. 発電所の床や水圧鉄管のアンカーブロック等の保守。以上の外に光学的な測量では困難なすべての微小な傾斜測定に殆んど応用出来る。

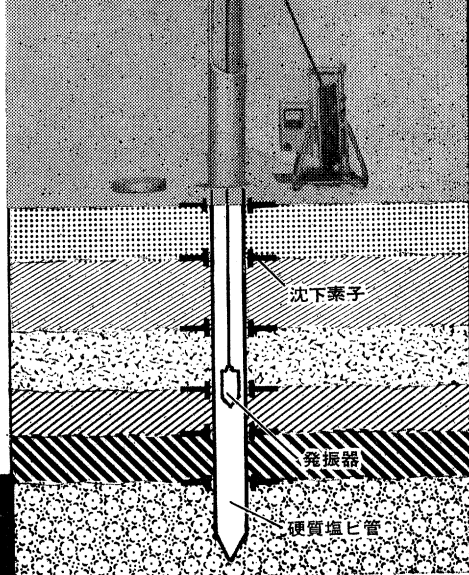
カタログ贈呈 誌名記入の上お申込み下さい



株式会社 **土木測器センター**
東京都大田区萩中町2丁目6番17号 TEL 742-4741 (代表)

●現場の施工に際し基礎地盤や堤体内の沈下量の測定は構造物の定安度に重要な資料を提供する

層別沈下量測定装置 SU-6M-A型



防水は グラスロンパンプライ

(無アルカリ ガラスルーフィング)

銅線入網状ルーフィング
メタリヤンメッシュ

ビニロン製特殊ルーフィング
ビニロンタイトルーフィング

裏板不要の特殊ラス
ヤハズラス

高山工業株式会社

断熱は グラスロンウールと セルコンで

(新しいガラス繊維板)

(セメント製軽量断熱材)

本社 東京都千代田区神田小川町1の8
TEL 神田 (251) 0161~6
大阪営業所 大阪市北区老松町2の19(昭栄ビル)
TEL 大阪 (341) 代表 5976~9
直 通 9015